

1.たくましい実力 (自立)	保健安全部	(取組指標) 集団の中で自他の健康・安全を意識して行動できる生徒の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、集団の中で自他の健康・安全を意識して行動できる生徒の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100		健康や安全については全教職員が特に意識して取り組んでいる。命に関わることは教職員が前面に立ち、主導する立場であることを自覚しているためと思われる。	引き続き共通理解を図りながら健康教育や安全教育に取り組んでいく。特に地震災害については定期的にシェイクアウト訓練を導入する等、学年の早い段階で防災について考える取組が必要である。
	集団の中で健康と安全を意識した生活習慣の定着を図る。	(成果指標) 私は、集団の中で自他の健康・安全を意識して行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、集団の中で自他の健康・安全を意識して 〔1〕 行動している。 〔2〕 ある程度行動している。 〔3〕 あまり行動していない。 〔4〕 全く行動していない。	1年 94.5 2年 97.6 3年 93.2 全体 95.0		どの学年も高い数値を示し、日常における健康・安全への意識の高さと、それに伴う行動力の高さが表れている。	引き続き日常的に自他の健康・安全を考え、意識して行動できるように支援する。そのためにも、健康安全的行事や防災・防犯訓練などを学びの機会と捉え、有効に活用する。
	新しく追加しました	(満足度指標) 私の子どもは、集団の中で自他の健康・安全を意識して行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、自他の健康・安全を意識して 〔1〕 行動していると感じる。 〔2〕 ある程度行動していると感じる。 〔3〕 あまり行動していないと感じる。 〔4〕 全く行動していないと感じる。	1年 88.2 2年 90.0 3年 79.7 全体 85.3		生徒の数値に比べると保護者の数値は低いが、目標指数には届いている。年間を通して学校での取組や生徒の活動を情報発信してきた成果と考えられる。	学校での様子や取組について、学年や保健安全部から情報発信を継続し、保護者と連携しながら生徒の成長を支援する。
2.明朗な和合・ うわしい秩序 (協働)	生徒指導部	(取組指標) 生徒が安心して学校生活を送るために、人権教育を推進するとともに、いじめの防止や早期発見・対応及び不登校への対処に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が安心して学校生活を送るために、人権教育を推進するとともに、いじめの防止や早期発見・対応及び不登校への対処に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100	100	教員一人一人が、いじめを許さないという意識や、生徒の心身の状態に寄り添い、多様性を尊重する意識をもって生徒に関わっていた。	今後も多様性を尊重する生徒の育成を図るため、支援の機会を作っていく。
	仲間意識を高め、人権教育を推進するとともに、不登校やいじめの未然防止・早期対応に努める。	(成果指標) 私は、安心して学校生活を送ることができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	生徒	私は、安心して学校生活を送ることが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 96.1 2年 94.3 3年 95.5 全体 95.3	1年 90.2 2年 91.0 3年 97.4 全体 92.9	100%ではないが、ほとんどの生徒が肯定的な回答をした。	今後も、年3回の教育相談アンケート及び面談を継続して実施し、生徒の悩みを早期に把握し、いじめの未然防止や不安の解消に努める。
		(満足度指標) 私の子どもは、安心して学校生活を送ることができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	保護者	私の子どもは、安心して学校生活を送ることが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 92.1 2年 90.0 3年 95.6 全体 92.9	1年 95.4 2年 90.5 3年 96.6 全体 93.5	2年生が5ポイント減少し、3年生は5ポイント上昇した。目標値の100%ではないが、ほとんどの保護者から肯定的な回答を得た。	アンケート等を活用し、家庭において、学校生活の楽しみや不安について話し合う機会を創出する。

2. 明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	生徒指導部	(取組指標) 生徒が諸活動(生徒会・学級・部)を主体的に運営できるように、協働して取り組む態度の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒の主体的な活動を推進し、仲間と協働して取り組む態度の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100	100	生徒の活動を考える際、常に生徒が主体となる取組を考えるようになるなど教員の意識改革が進んだ。	引き続き、学校全体で、生徒主体の教育活動を推進していく。
	自ら考え行動する態度や自治力を育成し、生徒が主体の活動を推進する。	(成果指標) 私は、生徒会活動や学級活動、部活動において、仲間と協働し、自分たちで考えて行動することができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、仲間と協働して主体的に生徒会活動や学級活動、部活動に取り組むことが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 98.4 2年 95.9 3年 93.9 全体 96.0	1年 97.4 2年 95.9 3年 98.3 全体 97.1	今年度は文化祭に加え、体育祭でも生徒主体の方向が明確になり、生徒の中でもその意識が根付いてきたと考えられる。	引き続き、生徒会を中心とした生徒主体の活動を推進していく。
		(満足度指標) 私の子どもは、自ら考え行動することができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、自ら考え行動することが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 66.6 2年 80.0 3年 84.0 全体 77.6	1年 86.3 2年 83.3 3年 72.4 全体 80.7	1年生の数値が低いが、先輩の姿を見ながらの成長過程でもあり、今後の伸びしろが大きいとも考えられる。	学校公開期間や各通信等を機会にして、生徒の主体的な活動を発信する。活動の振り返りに、学校外の生活においても、自ら考えて行動することを促す。
2. 明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	生徒指導部	(取組指標) 生徒の自ら考え行動する態度を育成するために、自治的活動や自らの生活を考える活動を推進する。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒の自ら考え行動する態度を育成するために、自治的活動や自らの生活を考える活動の推進を 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	100	100	「生徒心得」改正に向けての取組が生徒の自治的な活動になるよう、全教職員で共有しながら進めることができた。	生徒が自治的に学校生活の課題を見付け、解決していけるような教育活動の在り方を、全教職員で議論し推進していく。
	生徒会活動や学級活動の充実を図り、生徒の自治的活動を推進する。	(成果指標) 私は、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動することが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 93.0 2年 95.9 3年 96.9 全体 95.3	1年 98.2 2年 96.7 3年 95.7 全体 96.9	「生徒心得」についての議論を学級活動として進めたことにより、ルールに対して自ら考えた実感がもてたのではないが。	引き続き、生徒による議論を基本に、生徒自らがルールについて考えられるよう支援する。
		(満足度指標) 私の子どもは、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、ルールの意味や自らのあるべき姿を考えながら行動することが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 82.3 2年 90.0 3年 89.9 全体 87.6	1年 95.5 2年 88.1 3年 82.8 全体 88.1	目標指数は各学年とも達成している。1学年の数値が低いが、今後の学校生活を通して様々な体験をすることで数値の上昇が期待される。	引き続き、生徒心得の改正、交通ルール、SNSのルールなど自治的に学校生活の課題を見つけ解決していく体験を生徒にさせていくことで、意識の向上を図る。

3.地域を担う 人材の育成 （貢献）	進路・学習部	（取組指標） ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもち、知識を深め、地域に貢献しようとする態度の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒がふるさと「あわら」への理解を深め、地域に貢献しようとする意識が高まるよう、あわら考幸学の取り組みを 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。 R 4 年 度 私は、生徒がふるさと「あわら」に誇りと愛着をもつよう、ふるさと教育の推進を 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	100	96.5	ふるさと「あわら」について理解を深める機会を各学年で計画的に設定しているが、次年度に向けて、これまでの活動を検証しながら進めていく必要がある。	引き続き、学校全体で、あわら考幸学を推進していく。 テーマ設定のタイミングをあわら市の現状を把握した後に設定するなどより深い学びに繋がるように工夫していく。
	あわら考幸学を通して、ふるさと教育の推進に努める。	（成果指標） 私は、ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもち、地域に貢献したいと考えている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、ふるさと「あわら」について深く学ぶとともに、地域への貢献のあり方を考えながら、あわら考幸学に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。 R 4 年 度 私は、ふるさと「あわら」に誇りと愛着を 〔1〕 もっている。 〔2〕 ある程度もっている。 〔3〕 あまりもっていない。 〔4〕 全くもっていない。	1年 90.6 2年 90.2 3年 97.0 全体 92.7	1年 93.8 2年 87.7 3年 87.1 全体 89.5	現3年生が3年間あわら考幸学に取り組んだことで、地域貢献についてより深く考えるようになっていく。一方で、3年間を通して、探究に深まりが見られない生徒がいる。	今年度同様に地域への貢献のあり方を考える場を設定していく。 学年が上がるにつれて地域貢献のあり方がより具体的になっていくようにしたい。
		（満足度指標） 私の子どもは、ふるさと「あわら」に興味・関心があり、地域に貢献したいと考えている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、ふるさと「あわら」に興味・関心があり、地域に貢献したいと 〔1〕 考えている感じる。 〔2〕 ある程度考えていると感じる。 〔3〕 あまり考えていないと感じる。 〔4〕 全く考えていないと感じる。 R 4 年 度 私の子どもは、ふるさと「あわら」について 〔1〕 かなり興味をもっていると感じる。 〔2〕 ある程度興味をもっていると感じる。 〔3〕 あまり興味をもっていないと感じる。 〔4〕 全く興味をもっていないと感じる。	1年 58.8 2年 54.0 3年 59.4 全体 57.6	1年 81.8 2年 50.0 3年 51.7 全体 58.1	あわら考幸学での取組による地域貢献の活動や意欲向上が、保護者に十分に伝わっていない。昨年度のアフリア開業イベントなど、直接的な地域貢献活動がなかったためと推測される。	生徒の取組について、学年通信やHPで発信する機会を増やす。 より深い学びになるように家族からアドバイスを受けるなど、家庭でも取り組む機会を設ける。
3.地域を担う 人材の育成 （貢献）	生徒指導部	（取組指標） 生徒が地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加するよう働きかけを行う。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加するよう働きかけを 〔1〕 行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行わなかった。 〔4〕 全く行わなかった。	87.6	93.1	資源回収などの計画や指導の際、地域貢献の意義を生徒に伝えたつもりであるが、資源回収以外のボランティア活動を積極的に推進することができなかったことが、100%にならなかった理由ではないか。	あわら考幸学などの地域探究や、新幹線開通などに関連した活動を生徒とともに考えていく。 地域貢献の意味をもう一度とらえなおし、日頃から生徒にその意義を伝えていく。
	地域の人と関わる体験活動の充実を図る。	（成果指標） 私は、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに 〔1〕 積極的に参加している。 〔2〕 ある程度参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 全く参加していない。	1年 62.5 2年 80.4 3年 84.7 全体 75.9	1年 82.9 2年 77.5 3年 84.4 全体 81.6	一昨年から年々数値の低下がみられる。地区生徒会の時間に、その意義や地域貢献について深く考える時間がとれなかったのではないかと考えられる。	あわら考幸学などの地域探究や、新幹線開通などをきっかけに、地域に貢献する方法を考えたり計画したりする。 資源回収などの計画や指導の際、地域貢献の意義を生徒会活動として全校の生徒で共有する。
		（満足度指標） 私の子どもは、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに 〔1〕 積極的に参加している。 〔2〕 ある程度参加している。 〔3〕 あまり参加していない。 〔4〕 全く参加していない。	1年 72.6 2年 70.0 3年 76.8 全体 73.5	1年 77.2 2年 81.0 3年 72.4 全体 77.4	生徒と同様、一昨年から年々数値の低下がみられる。地域行事の参加に対する保護者の期待度を満足させる結果には至っていない。	探究学習の経過を学年通信等で発信するとともに、あわら市民として何ができるかを、家庭でも考える機会をもつよう啓発していく。